

令和2年7月6日

関係各位

九州地区へき地教育研究会  
会長 原田 政文  
佐賀県小さな学校教育研究会  
会長 黒木 恵二  
第66回九州地区へき地・小規模校研究大会  
佐賀大会実行委員長 小川 徳晃

## 第66回九州地区へき地・小規模校教育研究大会佐賀大会について

平素より本教育研究会の活動についてご理解とご協力をいただきありがとうございます。  
さて、本年10月15日・16日開催予定しておりました標題の大会につきまして、主催である佐賀県教育委員会・九州地区へき地・小規模校研究大会佐賀大会実行委員会より大会内容の変更上申を受け、九州各県会長の意見を踏まえ、以下のとおり決定をいたしましたのでお知らせいたします。

### 1 開催内容の変更について

- ・ 第66回九州地区へき地・小規模校研究大会佐賀大会を例年の参集型ではなく、紙面発表大会とする。

〈佐賀大会実行委員会から「大会内容の変更」の上申より〉

### 2 事由

- ① 「新型コロナウイルス感染症に関する特別措置法」に基づく緊急事態宣言が全国に発令され、一定の収束が見え始めて緊急事態宣言の解除にはなりましたが、首都圏はじめ、隣県の北九州市、福岡市などでも、未だに毎日感染者が報告され、学校関係者や児童の感染報告もあっている状況である。

学校現場では、手洗いの励行、換気、ソーシャルディスタンスなどの「三密」を避け、毎日教職員による消毒作業を行いながら、感染防止対策を徹底しながらの学校生活の状況である。今後、第2波の感染拡大が予測され、今なお収束の見通しが全く立っていない状況である。

- ② 本県の11月の最大イベント「バルーン大会」中止や各地の伝統的な行事も中止決定をほとんどの市町が行っている。研究大会佐賀大会開催地の佐賀市や小城市、神埼市の大会二日目の学校別分科会の会場校も、「三密」対策を徹底しているため、大会に向けた事前の授業や研究会ができていない状況である。また、学校では、保護者の授業参観及び外部の地域人材を活用した授業、児童が密集する集会なども、現在まで開催できていない状況でもある。

### 3 事後の対応

- ① 佐賀大会は「紙上発表大会」とする。
- ② 佐賀大会の研究概要、九州各県の課題別分科会実践資料及び学校別分科会研究概要などを集めた「大会紀要」を編集し、九州各県の連盟及び県内の会員校や共催・後援を頂いている教育委員会や各種団体に配布し、これまでの研究成果の共有を図る。また、紀要は全へき連会員ホームページにも掲載する